

防災ニュース 第14号



臨時情報が発表されたら！（1）

～ 南海トラフ巨大地震の脅威と対応 ～

皆様こんにちは。3月4日（土）に放映されたNHKスペシャル「南海トラフ巨大地震」ドラマをご覧になった方も多いと思いますが、その脅威と私たちの対処方法を改めて確認しておきましょう。（以下、内閣府「防災情報のページ」より）

1. 南海トラフ地震とは？

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として、過去に大きな被害をもたらしてきた大規模地震です。過去の事例を見てみると、これまで100～150年の周期で発生しており、1707年の宝永地震のように駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、マグニチュード8クラスの大規模な地震が隣接する領域で時間差で発生したりするなど、その発生過程は多様である事が分かっています。国の地震調査研究推進本部の長期評価によるとマグニチュード8～9クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は70～80%とされています。（令和4年1月1日現在）被害想定（平成24年8月29日公表）では、津波による死者が最大で22万4千人と甚大な被害となっていますが、地震直後に避難を開始する人の割合が高くなり、更に津波情報の伝達や避難の呼びかけがより効果的に実施されれば、想定に比べて約8割の被害軽減効果が推計されています。他人事とせず、一人ひとりが迅速かつ主体的な避難行動が取れるよう、日頃から備えておきましょう。

2. 巨大地震が時間差で発生するかも



南海トラフ沿いでは、1854年の安政東海地震・安政南海地震が約32時間の間隔を置いて発生した事例や、1944年の昭和東南海地震・1946年の昭和南海地震が約2年を空けて発生した事例など、時間差で巨大地震が発生した事例が知られています。南海トラフ沿いの大規模地震8事例のうち、少なくとも5事例は東側・西側の両領域がほぼ同時若しくは時間差（半割れ）で発生し連続することで破壊力を増しています。今後も同様の事象が発生する可能性があるため、南海トラフ沿いで一度地震が発生した場合には注意が必要です。

3. 南海トラフ地震臨時情報とは？

「南海トラフ地震臨時情報」は、南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報です。情報名の後にキーワードが付記され「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報発表されます。気象庁においてマグニチュード6.8以上の地震等の異常な現象を観測した後、5～30分後に南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発表されます。その後、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の臨時会合に

おける調査結果を受けて、該当するキーワードを付した臨時情報が発表されます。

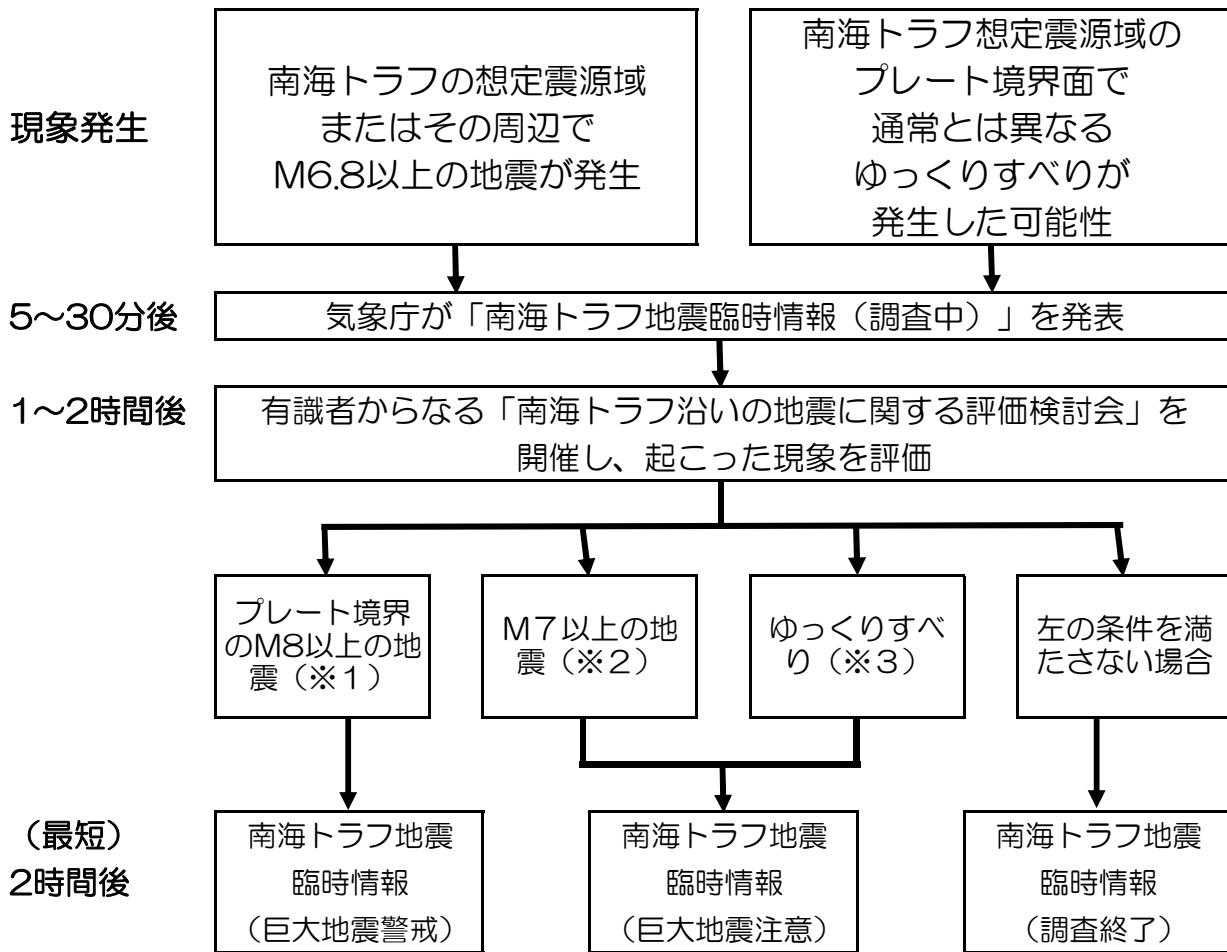
政府や自治体から、キーワードに応じた防災対応が呼びかけられますので、その内容に応じた対応を取って下さい。

臨時情報のキーワード

調査中	…	異常な現象を観測した場合
巨大地震警戒	…	下記（※1）をご参照下さい。
巨大地震注意	…	（※2）（※3）をご参照下さい。
調査終了	…	巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも該当しないと評価した場合



南海トラフ地震臨時情報の発表までの流れ（「豊川市地域防災計画」より）



※1 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合（半割れケース）

※2 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生した場合、または南海トラフの想定震源域内のプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生した場合（一部割れケース）

※3 ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合（ゆっくりすべりケース）